

# 令和元年度 学校関係者評価書

| 学校名 | 北海道厚真高等学校 |
|-----|-----------|
|-----|-----------|

| 組織名 | 学校評議員会   |
|-----|----------|
| 評価者 | ・学校評議員5名 |

## 1 本年度の重点目標

(1) 本校生徒に必要な資質・能力を明確にし、基礎的・基本的な知識や技能及び読解力の向上を図るとともに、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力を育成し、主体的に学習に取り組む生徒を育てる。  
 (2) 公共の精神や社会規範及び自他の生命を尊重する意識と態度を持ち、自ら正しく判断して行動できる生徒を育てる。  
 (3) 自己の適性を理解するとともに、将来の進路設計を明確に持ち、未来を切り拓く向上心あふれる生徒を育てる。  
 (4) 特別活動や部活動を通して、よりよい人間関係や社会性を育成するとともに、心豊かにたくましく活動する生徒を育てる。

重点目標の適切さ 教員による自己評価において、過去3年間と比較し、非常に高い評価がなされており、教員一人ひとりが教育目標および重点目標を意識した取組はもちろん教職員間の良好な連携が機能していることが理解できる。そのことより、適切な目標を設定していることが分かった。

## 2 自己評価結果

| 評価項目・指標等 |                                                                 |                                                                                                                                                      | 達成状況 | 取組の適切さ | 改善の方策                                                                                                      | 自己評価の結果<br>内容の適切さ | 取組の適切さ | 今後の改善方<br>策の適切さ |
|----------|-----------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------|--------|-----------------|
| 大項目      | 中項目                                                             | 小項目                                                                                                                                                  |      |        |                                                                                                            |                   |        |                 |
| 学習指導     | ・基礎的・基本的な知識技能の修得<br>・授業規律                                       | (指標)<br>生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、「朝学習」の取組等に係る肯定的な回答が70%以上となること。<br>(生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が70%以上を評価A、50%以上を評価B、50%未満を評価Cとする)                         | B    | A      | ・肯定的回答69%、前年度75%、前々年度83%と比べ低下。職員の取組は3.6と高いが、学習に向かう姿勢の乏しい生徒の増加に因る。教育課程を含めた検討を進める。                           | A                 | A      | A               |
|          |                                                                 | (指標)<br>生徒の自己評価、学校生活アンケート等において、家庭学習に関して「取り組んでいる」「概ね取り組んでいる」等の肯定的な回答が60%以上となることを目標とする。<br>(生徒の肯定的な回答(そう思う・おおむねそう思う)が60%以上を評価A、40%以上を評価B、40%未満を評価Cとする) | B    | B      | ・肯定的回答40%、前年度49%と比べ低下。課題の工夫や週末課題等の実施に取り組む、次年度は生徒の肯定的な回答が60%以上を目指す。                                         | A                 | A      | B               |
|          |                                                                 | (指標)<br>授業の途中退室について、1人あたり前年度比10%減を目指す。<br>(新指標 前年度実数の10%以上減を評価A、0%以上減を評価B、マイナス%を評価Cとする)                                                              | A    | A      | ・実数506名、前年度582名、前々年度705名と比べ改善した。次年度はさらに改善できるよう、ルールを含めて改善を進める。                                              | A                 | A      | A               |
| 評価者の意見等  | ・生徒一人ひとりに寄り添う教職員の姿が見える。<br>・自己評価の結果の内容の適切さから今後の改善方針が適切であると評価した。 |                                                                                                                                                      |      |        |                                                                                                            |                   |        |                 |
| 生徒指導     | ・公共の精神/社会規範の尊重<br>・自ら判断し行動できる                                   | (指標)<br>生徒の朝の遅刻を、1人あたり前年度比10%減を目指し、指導啓発を行う。<br>(前年度比10%以上の減少を評価A、0%以上の減少を評価B、増加を評価Cとする)                                                              | A    | A      | ・実数は429名であり、前年度480名と比べて減少した。教員による朝の出迎え活動、集会を活用した啓発指導などが要因。生徒会活動などを含め多面的な取組を積極的に進める。                        | A                 | A      | A               |
|          |                                                                 | (指標)<br>いじめアンケートで、「いじめはどんな理由があっても許されない」との回答率100%を目指し、そのための啓発指導を行う。<br>(回答の割合が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満は評価Cとする)                                     | A    | A      | ・「そう思う」との回答が初めて100%となった。いじめに対する啓蒙活動が影響している。職員の取組は4.0と満点であった。次年度も100%を目標に各HRや全校集会時における指導、生徒会の自主的な活動等の充実を図る。 | A                 | A      | A               |
| 評価者の意見等  | ・自己評価結果から今後の改善方針が適切であると評価する。<br>・いじめを肯定する回答がなくなったことを高く評価する。     |                                                                                                                                                      |      |        |                                                                                                            |                   |        |                 |
| 進路指導     | ・3カ年指導<br>・学年体制<br>・職業観                                         | (指標)<br>就職希望の進路実現に向けて年内の内定率を100%とする。<br>(内定率が100%であれば評価A、80%以上が評価B、80%未満を評価Cとする)                                                                     | A    | A      | ・年内内定は100%を達成した。次年度も、インターンシップを始め様々な取組により、職業観・進路意識を涵養し、早期に取り組んでいく。                                          | A                 | A      | A               |
|          |                                                                 | (指標)<br>生徒の資格・検定取得等の取組について調査し、受験率100%を目指すとともに合格率の向上を図る。<br>(受験率が80%であれば評価A、60%以上が評価B、60%未満を評価Cとする)                                                   | A    | A      | ・84%(前年82%・前々年65%)であった。1年生93%(48%・15%)2年生94%(79%・95%)3年生78%(80%・86%)であった。前年度82%並みであった。次年度はさらに取組を進め、合格率の    | A                 | A      | A               |
| 評価者の意見等  | ・年内の就職内定100%達成について高く評価します。<br>・資格・検定習得は生徒の努力と教職員の熱心さの表れです。      |                                                                                                                                                      |      |        |                                                                                                            |                   |        |                 |

- ・「達成状況」項目の評価(A、B、C)は、生徒による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。
- ・「取組の適切さ」項目の評価(A(3.5～4.0)、B(3.0～3.4)、C(～3.0))は、教員による学校評価(自己評価)アンケートの集計結果に基づく。